

第六部

國二會參議院文化委員會會議錄第三号

昭和二十三年一月九日(月曜日)午後二時四十分開會

○祝祭日の改正に関する件

○委員長(山本勇造君) それではこれから委員会を開きます。改選前のもので非常に御多忙だと思いますが、併し政變は改選、それから委員会は委員會ですから、殊に參議院の委員會はもうちゃんとやんとやらんといけませんからして、前回に引き續ぎまして祝祭日の件につけて纏めて行きたいと思います。最初にこの祝祭日の問題を法制化するのにつきましていろいろ御意見を伺つておいた方がいいと存じますので、法制部長に一つお話を承りたいと思います。それではどうか。

（参考）（参考）（参考）（参考）（参考）（参考）（参考）（参考）
で、私から祝祭日の法制化の場合の考
え得る問題を申上げまして、御審議の
御参考にいたしたいと思います。と申
しましても別に研究しておるわけでは
ありません。極く思い付きのことを申
上げるので甚だ恐縮であります。一
應しろ／＼の點につきまして感じた
とを申上げて見たいと思ひます。
祝祭日の決定が、舊來の形のよ
うな、何と申しますか、官憲的な色彩の
強いものから、國民的な祝祭日と
ことにならなければならんといふこと
が、この委員會で取上げられておる問
題だと思ひますが、すべての法制化に
當りまして、すべてさような觀點から
問題を考えて行かなければならぬ

思います。さような點から數點につきまして氣付いた點を申上げたいと思います。まず第一は、この法制化の場合に、祝祭日を一種の宣言的なものにすらか、或いは何らか拘束的なものにするか、或いは何らか拘束的なものにするかといふ點があろうと存ぜられるのあります。これ／＼の日、これ／＼の名稱を以て祝祭日とするということを國內全般に宣言をしまして、これによつて效果を擲げると、いふような宣言的、政治的なものにするか、政治的といふ語彙があるか知れませんが、國民的なものにするか、或いはもう少し法律的に何らかの拘束力を伴うものとするか。これは言い換えますれば、祝祭日に關する制度とするか、或いはその中に一種の休日に關する制度にするかという問題とも関連いたすかとも存じます。御承知のように從來の祝祭日の制度は勅令等でもむしろ休日に關する制度にする制度は定められておりましたので、表面は祝祭日になつております。これは恐らく直頭に申しました今回の考え方から申しますれば、祝祭日を取上げて行く、休日はそれに附帶したものにするといふ考え方からいたしまして、或いは宣言的な形の方がよろしいのじやないかといふ感じもいたすのであります。で、それに關連をいたしまして、祝祭日といふことでここでも御論議になつておりますが、祝祭日といふ名稱自體が種類であらうと想ひます。

それに附隨しまして法律の名稱が變つて参ると思うのであります、祝祭日が果して適當か、法律の名稱をどうするか、その大體の中味を宣言的なものにするか、拘束的なものにするか。熱く今までの御審議の經過から考ええすれば、私はこれは宣言的なものがよろしいのじやないかといふ感じがいたしますが、この點は一つ根本的問題として御協議、御審議を願いたいと思うのであります。

それから第二番目は、さような前提が決まりまして、今度は内容的にどういうことが考へられるか。これは今まで御審議に與かつた點であります、まず名稱の問題、それから期日の問題、どういう名稱でどういり日にするか。これは今までからの御審議をそのまま活かして行けばいいであります、現てそれを法制化する場合にそうちな名稱なり、期日をそのままぶち込んで行くか、或いはそこに從來のようない種の祝祭日と休日と申しますか、祝祭日といふ名稱が問題であります、何らかそこに區分をして規定をされるかどうか。一本にされるか、或いは何とか二種或いは三種に區分される、規定されるか。二種或いは三種に區分するならばさうような規定の體裁になつて来ると思いますが、その邊のお決まりを願うことが規定の體裁を定めて行く上に重要だらうと存ずるのであります。名稱と期日と今の區分の問題、一に進みまして從來の規定にありますように、單に名稱と期日だけを掲げ

に止めるか、或いは、ここでの御審議の結果を明確にする意味合におきまして、その精神と意味と申しますか、意義をこの制度の中に書き込んで行く。これはむしろ意味を明確にされたく。何日といふことよりも、そこに多少の意味を規定をされて行くことになるかどうかという點が問題であります。尙それに關連をしまして、この祝祭日を選び、或一定の日を選んだ際に、それに一つの意義だけを持たせるか、或いは一つの意義の外に一種或いは二種の意義を加え持たせるかどうか、ということも問題であらうと思います。若しさような企てがあるといひますれば、さような點も書き込んで行くといふ點にならうと思ひます。これらが實體的な内容について問題になる點であろうかと思ひます。

それから第三番は、第一に申し上げましたとの関連をいたのでありますが、休日の関連をどうお考えになるか、という點であります。從来は御承知のように勅令でむしる休日として定められておつた。これをさつき申しましたように、祝祭日を表面に取上げて、むしろ休日といふことを表面に出さない方がよいのではないか、ということが多いに考えられると思うのであります。併しながら休日の點に觸れた方がよいといふ御意見であれば、その點もいかがおきまし問題になり得るのであります。併しながら

から休日と申しましても、今までのいわゆる官憲的な思想から申しますると、役所の休日であるかのような形を呈したのであります。が、國民一般に休日を強制するということはどうであらうかというような點或許は必ずしも祝祭日に今までのようない祝祭日即休日といふことでなくして、その中の一部分が休日になるということであれば、これは多少規定の意味をなす問題になりますが、休日にはむしろ宣言的なものにして、休日はむしろ切り離した方がよいのではないかということも考えられるのであります。その點が問題であります。尙その休日の問題に關連しまして御参考に申し上げて置きたいと思ひます。が、脚承知のように労働基準法によりまして、一般的の休日の關係が可なり法律的な意味を持つようになつて參つたのであります。それは労働基準法の第三十五條に、「使用者は、労働者に對して、毎週少くとも一回の休日を與えなければならぬ。」という規定があります。これは常識的には日曜は休むといふとであります。が、毎週少くとも一回といふことで、必ずしも日曜とは限定していないのです。他に休日をもつてこれに代えることも差支ない。それがら同じ労働基準法の第三十七條に、今後の休日の規定を受けまして、休日に労働させた場合には、その日の労働について通算の労働時間の賃金の計算額の二割五分以上の率で計算した割増賃

[66]

祭日即休日だ、或いは少くともその二分の一
部分は休日だ、ということが法律で許さ
れますというと、この労働基準法の規
定によつての休日に相成つて、法律的
にそなつてしまふと、いうことにも解
釋されるのであります。日曜の休日と
普通の休日とをどう織り混ぜるかとい
う點であります。尙労働基準法には今度
一つ八十九條に、休日に關しまして八
十九條の規定がございまして、基準法
の八十九條に、常時十人以上の労働者
を使用する使用者は、左の事項につい
て、就業規則を作成しなければならぬ
といふ就業規則の規定があるのですあ
ります。就業規則の中には休日に關す
る事項を定めるということに相成つて
おります。従つてこの規定と、先程讀
みました三十五條なり、或いは三十七
條と關連をいたしまして、この労働者
につきましての就業規則で休日を決め
る。その休日を受けて、懶くとも毎週
一回以上、それからその休日に働くた
場合には割増賃金、こうしたことに明
確になつておるのであります。これが
帝國憲法時代のさよな制度のなかつ
た時分と相當趣きを異にして参るで
ありまして、さような點から考へまし
て、むしろ休日は、官廳でありますれば
官廳の内部の規則、又その他一般民
間つきましては、この労働基準法の就
業規則で決めるという形を探ることの
方が適切いやないだらうか。祝祭日に
つきましては、宣言的に祝祭日とい
ことを決めるというに止めた方が宜し
いのじやないか、という感じもいたすの
であります。併しこれは非常に重要な
な點であります。又一概にそう申さん

・それから第四番目の點は、祝祭日の
内容としての一種の行事、その他の催
しと申しますか、かような點につきま
して法制化の場合に如何に考えられる
か。先程申しましたような宣言的な規
定ということに相成りますれば、むし
ろ固よりそういう點につきまして細か
く立てるところには、法律としても
適當じやないという點もあろうかと思
われるのでありますするが併しながら又
お考へようによりましては、これも全
部の祝祭日でなくとも、或る特定の祝
祭日につきましては、なんらか法制的
に規定をするということとも考へられる
と思われるのであります。そうした點
は法律で拘束することは適當じやない
ので、この問題は範くまでも、單に宣
言的に祝祭日を決めるだけに止めよう
といふ御意見も尊重せらるべきだと思
いまするが、この行事、その他の點に
つきまして、一應の御論議が願いた
いと思うのであります。それが第四番
目であります。

・それから第五番目に、かようなこと
を盛込みましての法律の形式の問題で
ありまするが、以上のことが決まつて
参りますれば、自然に法律の形式が固
まつて参るのであります。ただ併しな
がらこの事柄の性質上、この制度の法
律化につきましては、多少從來の法律
の形を離れた一種自由闊達な形式をお

用いになるというような御意見もあつたことは、さうなことも望ましいことであります。しかしと思ひますし、さうな點につきましては法律の形式を如何にするかと、御研究が願いたいのであります。専ら、もと従来の勅令に現われておりますが、ように、左の通りの祝祭日を決めるところ點につきましても、皆さん方の間にいふ素つ氣ない言い方じやなくして、例へば法律の前文なり、或いは第一條に、祝祭日を決めるにつきましての持を規定をいたして行くといふようだ。式もあり得ると思われるであります。併しこれもさうな色彩をむしろ残さん方が宜しい、といふ意見もありますが、この法律の形式をどういふうにするかといふ點に、非常に御検討を願いたい點が一つあります。

つて國民に聽えてゆく、どう行き方を
「一つある」と思います。もつと内輪
形としたしますれば、例えば委員會
における審査報告の中に、左様な點を
取り込むというような内輪の行き方をも
ろうかと思います。これらの點を、
うした種類の法制化的性質上併せて
考え願いたいと思います。

以上の點は極めて常識的なことで
りまして恐縮でありますが併し恐
く法制化の問題につきましては、そ
以上の複雑なこともなからうと思
すし、又以上申上げました點だけ
も、可なり幅のある問題であり、御全
封の次第によりましては、なかへ厄
な點も出て來ると思いますから、以
の各事項につきまして御研究を願い
して、その結果を法律にしたいと
いう恰好でお進みになることがよく
はないかと思います。委員長からの御
話でありますので、御参考になるか
うか。一應以上の通りでござります。
○委員長(山本勇造君) 只今法制部長
から細かな御説明がございましたが、
この中でも特に今度の問題を宣言の形
で出すか、法律の形で出すか、これば
非常に大きな問題であると存じます。
又宣言の形ならばどういうふうにな
が、法律ならばどういうことになるか
ということについて、いろへへ御質問
があるのだと思いますが、御遠慮なくな
が、法律ならばどういうことになるか
法制度長が見えておりますから御質問
を願いたいと思います。

○參事(川上和吉君) ちよつと今の委
員長のお話で、或いは私の申上げたの
が徹底しなかつたと存じますが、私
の申上げたのは、形はやはり法律でと
ろうと思います。

○委員長(山本勇造君) 宣言だ。

○參事(川上和吉君) はい。中味は……。法律というのは、いわゆる以前の頭で言えども、何等かの権利を設定するか、或いは義務を課すと、それが法律であるに對して、この法律は別に権利義務を生みさせるものではない。中味は宣言的のものである。法律の形ではあるけれども、中味が宣言的のものであるから、或いは何等かの義務、禁錮基準法において必ず休日にしなければならんというような拘束的のものにするかというような意味で、御検討を願いたいという意味において申上げたのであります。

○委員長(山本勇造君) 分りました。今よりは次第でありますから、いろいろ疑問もあると思いますが、丁度法制部長がお出でありますから、一つ御遠慮なく御質問を願いたいと思います。

そうすると宣言の形とするとして、も、やはり第一條何々、第二條何々となつて来るのですか。

○參事(川上和吉君) その通りで結構でございます。ただこの法律が特別の義務を伴わぬということだけを申上げた意味であります。

○三島陽君 法制部長に伺いたいのですけれども、拘束的な法律的な内容を持つたといたしましても、何かセセッションのようなものが含まれた法律というようなものが今までに例がありますでしようか。どうでしようか。

○參事(川上和吉君) これは例えは教育基本法ですが、これも必ずしもそれまで拘束と申しまするか、それ自體義務を発生していない。一般的にこれは廣い意味では義務と言えども義務かも知れませんが、或る意味においては宣言

な點であります。又一概にそし申さん

の形を離れた一種自由闊達な形式をお

お氣持を表現して頂いて、これによ

うと思ひます。

廣い意味では義務と言えば義務からも知れませんが、或る意味においては宣言

的なもので、ああいう恰好もありま

す。

それから必ずしも法律はそうした権利義務を發生させるものといふに

窮屈に言つて必要は、殊に新憲法の法律

の思想から申しますれば、その必要は

ないので、宣言的なもの、いわゆる義

務を発生させないもので一向差支えな

いと、私はかよう考へます。

○三島清陽君 お話よく分りますたの

ですが、私の申しました意味は拘束

の程度それには附隨してセゼンション

をしているというようなものなくつづ

けているような法律が今まであるでし

ょうか。こういう意味なのです。例え

ば實際問題として、祝祭日の法律を取

り上げた場合に、これは休日すべき

ものである。何月何日を……併しそ

の休日にはこういうような行事という

ようなものを持つて欲しい。これは拘

束もしていないし、これは義務づけて

いないのですが何かそういうた

めであります。併しそ

うか知りませんけれども、そういうよ

う心持をつけたような法律が今までございますでしようか。

○参考(川上和吉君) ちまつと私共も

今の御質問に適切な例は思ひ當りませ

ん。併しこれはそういう例がなくて

も、そんな氣にされる必要はない。御

自由にお決めになつてよろしい。たゞ

非常にそのヤゼンション的なものなら

ば、法律的に入れるのはよろしいので

すが、今のお問合せでそのまま一致された

ことが、そのまま後まで續いてよろし

いがどうかというような内客的な問題

があるので、皆さんの御意見さえ一致

すれば、さようなものでも一向差支え

ないと思ひます。

○委員長(山本勇造君) 尚御質問あり

ませんか。今のその宣言という場合の

ときには休日というような問題はその

中には入れないです。休日の問題は

ら休日の問題にも觸れるという、こう

いうようなところも宣言というのと法

律との違ひですか。

○参考(川上和吉君) 基本なんです。

が、どちらも法律なんでござります。

ものというのとは、別に内容に休みと

いうことを義務としてやつていいと

いうことだけを申上げたわけなので

す。

○委員長(山本勇造君) どちらでもそ

の問題を入れてもよろしいのですか。

○参考(川上和吉君) 拘束ではあります

が、ただ休日を入れると、先程申し

ましたように労働基準法との關係が直

ぐ出て参ります。いわゆる法律的に意

味を持つたことになつて参りますとい

うことになると思います。ですから、

サゼンションという言葉が書かるかどうか

が知りませんけれども、そういうよ

う心持をつけたような法律が今までございますでしようか。

○参考(川上和吉君) ちまつと私共も

東もしていないし、これは義務づけて

いるのであります。併しそ

うか知りませんけれども、そういうよ

う心持をつけたような法律が今までござ

いませんでしようか。

○参考(川上和吉君) お話通り昔出

たのもあります、年末年始はやはり今

でも太政官布告がそのまま續つておる

ようであります。太政官布告の「自今

休暇左ノ通便定候事」というのがその

まま適用になつておるのでございま

す。尙その點が、例えば年末年始の今

の役所の休暇も何か取り入れなければ

工合が悪いといふ點があれば、それを

が、どちらも法律なんでござります。

が、どちらも法律ですが、中味は宣言的な

ものというのとは、別に内容に休みと

いうことを義務としてやつていいと

いうことだけを申上げたわけなので

す。

○参考(川上和吉君) お話通り昔出

たのもあります、年末年始はやはり今

でも太政官布告がそのまま續つておる

ようであります。太政官布告の「自今

休暇左ノ通便定候事」というのがその

まま適用になつておるのでございま

す。が、宣言的なものでないと、義務附け

るわけないですから、休日の問題は

おのずから取扱われないようになります。

じやありませんか。そうであります

か。休みにするというようなこと……。

○参考(川上和吉君) 私の申上げま

したのは、多少今お話のような氣持

が、たゞこれも或いは規定の仕方があ

る。何か官廳内部の、例えば總理大臣

の告示が何かの恰好でやるもの一つの

方法であります。今ここでお取り上げ

になる問題としては、むしろ大きく祝

祭日を取り上げて、休日の問題は少し

外された方がむしろ適切でないかとい

うことだけを申上げたわけなので

すが、併しそれも一緒に入れて行くの

も……。

○参考(川上和吉君) 無論法律の中

にそれを規定するかどうかは別問題で

せん。ただ休日を入れると、先程申し

ましたように労働基準法との關係が直

ぐ出て参ります。いわゆる法律的に意

味を持つたことになつて参りますとい

うことになると思います。ですから、

サゼンションという言葉が書かるかどうか

が知りませんけれども、そういうよ

う心持をつけたような法律が今までござ

いませんでしようか。

なるものといふ意味は略々分りました

が、宣言的なものでないと、義務附け

るわけないですから、休日の問題は

おのずから取扱われないようになります。

じやありませんか。そうであります

か。休みにするというようなこと……。

○参考(川上和吉君) 私の申上げま

したのは、多少今お話のような氣持

が、たゞこれも或いは規定の仕方があ

る。何か官廳内部の、例えば總理大臣

の告示が何かの恰好でやるもの一つの

方法であります。今ここでお取り上げ

になる問題としては、むしろ大きく祝

祭日を取り上げて、休日の問題は少し

外された方がむしろ適切でないかとい

うことだけを申上げたわけなので

すが、併しそれも一緒に入れて行くの

も……。

○参考(川上和吉君) お話通り昔出

たのもあります、大體今までの考え方だと

すがね。ただ我々が考えて行く上に、

祝祭日が全部一日休みになるか、或い

は半日になるか、休むといふことに規

定するか、そこらのこともいろいろ

ございますが、大體今までの考え方だと

祝祭日は休みだということになつて、

祝祭日が全部一日休みになるか、或い

は半日になるか、休むといふことに規

定するか、そこらのこともいろいろ

なものといふ意味は略々分りました

が、宣言的なものでないと、義務附け

るわけないですから、休日の問題は

おのずから取扱われないようになります。

じやありませんか。そうであります

か。休みにするというようなこと……。

○参考(川上和吉君) 私の申上げま

したのは、多少今お話のような氣持

が、たゞこれも或いは規定の仕方があ

る。何か官廳内部の、例えば總理大臣

の告示が何かの恰好でやるもの一つの

方法であります。今ここでお取り上げ

になる問題としては、むしろ大きく祝

祭日を取り上げて、休日の問題は少し

外された方がむしろ適切でないかとい

うことだけを申上げたわけなので

すが、併しそれも一緒に入れて行くの

も……。

○参考(川上和吉君) お話通り昔出

たのもあります、大體今までの考え方だと

すがね。ただ我々が考えて行く上に、

祝祭日が全部一日休みになるか、或い

は半日になるか、休むといふことに規

定するか、そこらのこともいろいろ

ございますが、大體今までの考え方だと

祝祭日は休みだということになつて、

祝祭日が全部一日休みになるか、或い

は半日になるか、休むといふことに規

定するか、そこらのこともいろいろ

ございます

出しておるところはないのじやないかと思うのでござります。それからその他の祭日でございますね。むしろ日本で言いますと、お彼岸とか、お盆に當るような年中行事は、確かに休みに、リーガル、ホリデーになつてないど思ひます。ですから、大體は學校などでも、例えばメーデー、これは勞働祭の意味のメーデーでなく、お祭りのメーデー、そういうようなときには、みんな夕方とか、學校で申しますと午後の授業を休んでやる、それから夜やるとかいろいろなつております。そ

ういうふうになつてゐるようと思ひます。全體としてやはり宣貫的なものじやないかと考えるのでありますが、な

おこの點に關しましてはこの次の委員會までに調査して御報告申上げることにいたします。

○久松定武君 今のお話をアメリカの例で言ひますと、ナショナル、ホリ

デーでも全體休むということには限つてないよう私思ひであります。

例えばリンカーンの日でも南部は休ま

ない、北部は休むとか、非常にそうい

う點は自由のよう私は思ひます。そ

れから學校は休んでも銀行は休まない

といふことが多いうふうに思ひます。そ

れで私この際ちよつと私の知つております英國人に三、四回会いまして、ホリデーのことについていろいろ聞いた

には、どうも今まで新聞で見ておる

と、日本の今度の問題は、休日と祭日

のことを非常に言うのであります。そ

れは一般の外人がそう見ますか、それ

は分りませんですが、今後の、將來こ

れを決めて行くといふ點については考

慮すべきことだと私は考へるのであります。さつきのお話が出来ましたよろ思ひます。ですから、大體は學校などでも、例えはメーデー、これは勞働祭の意味のメーデーでなく、お祭りのメーデー、そういうようなときには、みんな夕方とか、學校で申しますと午後の授業を休んでやる、それから夜やるとかいろいろなつております。そ

ういうふうになつてゐるようと思ひます。全體に多いよう思ひ、ということを

後關係第との交渉においても御参考にならるると思ひまして申上げます。

○委員長(山本勇造君) その點は、す

ぐで今までやりました委員會におきま

して、既存の考え方として、休日とい

うものと祝祭日というものははつきり

分けて考えて立てておりますから、大

體その様で行つてゐると思ひます。外

にどなたか……。なおちよつとお尋ね

いたしますが、日曜は休みだと言いま

すが、土曜日はどうなつております

か、むしろ日曜は休んで教會に行く日

になつて、土曜日を休んでいるとい

ことはありませんか。

○久松定武君 半ドンでござります

いたしますが、日曜は休みだと言いま

すが、土曜日は三日しかない。ウニ

ルズとイングランドは大體習慣が同

じ、スコットランド、アイルランドは

全然違つ工おるらしい。

○赤松常子君 先程お話を中に、法律

とはするけれども、その中の内容の形

式をどういう形式にするかといふこと

を仰つしやつておりますのでございま

すけれども、なんぞございましょ

うか。こういふ権利義務を含まない問題

に對しては、法律といふ形をむしろ取

ります。併しあくまで法律じやなく

ても無論宜しいのであります。今そ

の他には、決議じや工合が悪いし、ち

よつと適當な方法が考へられないの

ないか、こういふ點が考へられるので

あります。併しあくまでも法律じやなく

はこれ非常に獨斷であります。意

義の程度であれば比較的簡單な形で書

き表わせるのじやないか、従つてその

邊はこの委員會でどうお決めになるか

によつて如何よろしくなり得ること

で、ただ結論を早く出しますれば、恐

らく行事まで行くのは非常に複雑な

事務であります。それで、御参考にな

ら考へられるのじやないだらうか、併

し此の委員會の御決定によつてもつと

書けとおつしやるならば書かんこと

もありませんが、その邊或いはお答え

は甚だ不徹底かも知れませんが、御参

考まで申上げます。

○委員長(山本勇造君) なにかその他

に御質問ございませんか。

○赤松常子君 そうすると、この休日

なたは法科出身だから一つこういふ

題を突つ込んで下さい。

○高田寛君 大體今までの法制部長の

お話を見當は付いておるよう思ひの

ですが、結局國會で決めるには赤松さ

の御質問もありましたが、法律以外

うしてもその日は家にいて、或いはドライヴ以外にすることがないよう状態であります。イギリスなどでも、ロンドンでは日曜日には劇場は全部閉鎖いたします。レストランも開いておる

ため、休むというものが歐米の習慣であります。日本は多少その習慣が異つておるため、休日が必ずしも日曜でないといふ例もありますが、非常に外人の見た目から見ると、日本の休日

が全體に多いよう思ひ、ということを非常に言つております。この點多少今後關係第との交渉においても御参考にならるると思ひます。この點多少今

うることは申せると思ひますが、法律でないわけであります。ただ先程も申し

ましたように、権利義務をつけないものでも法律でやつても差支はないといふことは申せると思ひますが、法律で

やらなければらんか、外の形式ではいかんかと仰せられると、これは法律でないと思ひます。ただそれは法律以外にどう

いふ形が考えられるかといふことは言えると

か、國民的な全體の意志を表示するの

なりますと、國會の意思と申します

が、併しどうもやはり國民の祝祭日

を決めるというのに、決議といふこと

だけではどうもやはり物足りんじやないか。やはり國會が決めて國民全體が

いか。やはり國會が決めて國民全體が

義務は伴わんでも決めたといふ形をと

ります。以上は、法律といふ形式によられる

方が適當じゃないか、國會で決められ

る場合には必ずしも法律じやなく

ても無論宜しいのであります。今そ

の他には、決議じや工合が悪いし、ち

よつと適當な方法が考へられないの

ないか、こういふ點が考へられるので

あります。併しあくまで法律じやなく

はこれ非常に獨斷であります。意

義の程度であれば比較的簡單な形で書

き表わせるのじやないか、従つてその

邊はこの委員會でどうお決めになるか

によつて如何よろしくなり得ること

で、ただ結論を早く出しますれば、恐

らく行事まで行くのは非常に複雑な

事務であります。それで、御参考にな

ら考へられるのじやないだらうか、併

し此の委員會の御決定によつてもつと

書けとおつしやるならば書かんこと

もありませんが、その邊或いはお答え

は甚だ不徹底かも知れませんが、御参

考まで申上げます。

○委員長(山本勇造君) 法律の内容には

盛り込むだけのものが必要なのでござ

りますが、それはどう扱いますのです

か。

は分りませんが、今後の、将来この點については考

の地帶になりますと、日曜日は全然し

を取るということを私はむしろ避けた

との關係や、或いは行事の問題、或いはその祝祭日の意義でござりますね。

ですが、結局國會で決めるには赤松さ

になんか作ることは考えられないか、この點をやはり考えるのですが、これは國民一般にこれを廣く知らせるということになると、やはり法律といふ形式を探るのが一番よいと結論としては思いますが、それから休日という點と祝祭日という日、これは初めのお詫がありましたように分けて考えるのが宜しいと思います。ちよつと遅れて来て初めの御説明を伺わなかつたのですが、現在は休日という點は太政官布告が生きておるわけですね。

○參事(川上和吉君) 現在は祝祭日を休日にするのは、昭和二年の勅令についてあります。

○高田寛君 その勅令といふのはただ官吏に對して休日を與えるという勅令なんじょうね。一般國民に對してではないでしょ。

○參事(川上和吉君) その點はどういふうに解釋して宜しいですか。この勅令の中味が非常に簡単で、「左ノ祭日及祝日を休日トス」これだけなんですね。おそらく形式的に太政官布告を沿革的に見ると、今高田さんのお話のように官廳に對する訓令的規定だと見られんこともないと思います。併し命令でこの形式を探つた以上は、必ずしも官廳の休日だけとはいひで、もう少し廣く休日であることを宣言したうような形にも見えるのです。これもどういうふうに解釋していいか、ちよつとあまりはつきりいたしません。併し官廳に對する休日、こう考えて宜しいと思います。しかし官廳の休日を全部治済的にいえればお詫のように主としてあります。しかし官廳の休日を全部そこで取上げるのでなく、年末、年始、日曜日に対しても、太政官布告がその體殘つておるので、必ずしもそのと

ころは徹底しております。そういうことに拘泥しないでお考へになつて下さいのではないかと思ひます。

○高田寛君 これは休日の點になると非常にむずかしいので、私の今までの解釋では休日といふのは官廳だけと思つておりましたが、成る程今法制部長が太政官布告を讀まれたのでは、「休日トス」と言い放しになつておつて、勅令で一般に效果を及ぼすよりも解釋されるのですが、しかし現在一般に休まなければならんというように義務付けておるわけでもなく、これは各職場々々の會社なり、それから工場なり、そういう所で、その日に仕事をやつておるところも現にあるわけです。この點は休日とするしないの問題は、從來の日本のやり方はどうも一般國民は徹底してしないが、これは餘程これから研究問題だらうと思ひます。殊に又さつき法制部長から御説明がありました労働基準法の關係が、これから特に重大な影響を及ぼすことになるだろうと思ひます。結局法制部長のお話のようになつて、官廳に對する御説明などを法律で決めるならば、法律で決めた方が宜かるう、こういう御説明なのですか、その點をもう一度伺います。

○參事(川上和吉君) これは今高田さんのお話のように御説明をこの席で御参考申しますが、私の意見をこの席で御参考申しますが、今の考へとしてあるならば、法律で決めた方が宜かるう、こういう御説明なのですか、その

日の點は、官廳については内閣に委す。民間については労働基準法の就業規則の方に委すということで、ここで休日の問題には觸れない方が宜しいのではないかというふうに考へられる。ただ併しながら、祝祭日の中味については特に何か或る日を選んで、丁度先程のバンク・ホリデーのお詫みたいに、或る特定の日だけを休日にするということ、そういう方法も一應考慮されるのではないかという氣がいたすのであります。併しこれは非常な獨斷でありますから、皆さん方の御審議によつてお決め願うことにいたしたいと思います。ただほんの氣づきだけを申上げましたので、私も定見を持つておらず御質問がなれば設會いたします。

○委員長(山本勇造君) 如何ですか、他の方は……。それではこの邊でもう御質問がなれば設會いたします。午後二時三十分散會

出席者は左の通り。

委員長 山本 勇造君
理事 金子 淳文君
赤松 雅子君
久松 定武君

委員
梅津 錠一君
徳川 順貞君
大隈 信幸君
藤森 真治君
岩本 月洲君
高田 寛君
眼部 教一君
三島 通陽君

參議院事務局側

參事(法制部長) 川上 和吉君
専門調査員 岩村 忍君

昭和二十三年六月十六日印刷

昭和二十三年六月十七日發行

文藝院事務局

制印者 制印局